

かけだしの頃

今だから話せる
ゲンバの失敗



20代の頃
国際空港での1枚



佐藤工業株式会社 東京支店
土木事業部 土木部 土木課長

小島 信一

1980（昭和55）年に佐藤工業株式会社に
入社。入社以来27年、主に地下鉄駅開
削工事で研鑽を積み、現在にいたる。



今からお話することはそれほど劇的
じゃないけど、大きい（失敗の）話はと
てもできないから（笑）、少し我慢して
聞いてもらいましょうか。

入社して二年目のことです。ある地下
鉄の工事で一緒に（地下に）収容する共
同溝を工事しているときに、コンクリー
トの打設で失敗したことがありますよ。

あれは共同溝の中に水道防護コンク
リートの打設をするときでした。共同溝
に向けて生コンを、確か垂直方向へは一
五m、横方向へは二〇〇m近く圧送して
コンクリートを打とうとしたのですが、
圧送用の生コンが配管材のどこかで詰
まってしまって、その日の打設はとうと
う中止。しかも、圧送用の配管材は時間
とともに硬化が始まったコンクリートで
ダメになってしまい、すべての配管を取
り替えた経験があります。

現場に出て二年目ともなると、自分で
職人や機械、材料などを手配できるよう
になっていましたから、少し慢心してい
たのかもしれない「ラクに打てるだろう」
と考えて、圧送する生コンの仕様もロッ
クに検討しなければ、二〇〇m近く横方向
へ圧送する意味も考えず、失敗するべく
して失敗をしてしまったわけです。

これが新入社員のころであれば、こう
いった失敗は起りようがないわけ
です。なぜなら、上司や先輩社員の指示ど
おり作業していれば、間違えるなんてこ

とはまずありえない。ところが、現場に
出て二年目ともなると、上の人たちは「自
分で考えろ」というスタンスで接してき
ますから、この時期にはじめて段取りを
意識せざるを得ないようになる。

とはいっても、土木というのはあくま
で経験工学ですから、何より経験がもの
を言う。入社二年目の人間の考えること
なんて、実は高が知れているから、素直
に上司や先輩などに相談すればよかった
んだけど、何かの拍子に「オマエ、そん
なことも知らないのか」と言われるのが
嫌で、実はそれをしなかった。

結局、施工の方法について、上司や先
輩、協力会社に確認せず、経験の少ない
自分の判断だけで工事を進めようとした
のが、そもそもその失敗の原因なんです。

今は、当時の自分とまったく逆の、む
しろ、あのころの上司と同じ立場になり
ましたが、ときたま若い連中には「その
話は事前によく調べたのか？」と言いた
くなることもある。それと同じで気持ち
で、当時の私の上司たちも「そんなこと
も知らないのか」と言っていたにすぎな
いんでしょね。本当は、事前にはわか
りと調べさえすれば「そんなことも知ら
ないのか」なんて言われるはずもないの
に、若いときはそれがわからない（笑）。

現場のことは、事前によく調べてから、
上司や先輩、協力会社と相談しながら進
めていくのが大切、というのが、私の失
敗から得られる教訓かもしれませんね。